

郁子医師が病室に戻ってきた時には、Nちゃんは死の一步手前であったといつて過言ではないと私は思う。したがって、その後郁子医師が救急処置を行っている最中に、心臓機能が急激に低下してきてもおかしくはない。その時に郁子医師は強心剤を急ぎ投与しているが、これは当然の処置であり、次いで心停止が来れば、心臓マッサージをする状況になっていたのである。

それ以前の急変患者の際も、心停止時、郁子医師は心臓マッサージを行っている。Nちゃんの場合も、守服役囚の弁護団の言うように、郁子医師は呆然として心臓マッサージもしていなかったということではない。

心停止時に救急隊が到着し心臓マッサージを開始したため、郁子医師は直接手を下す必要がなかったと私は解釈する。いずれにしてもNちゃんは、一時心停止に陥ったものの、その直前の郁子医師による強心剤の投与と、その後の救急隊員による心臓マッサージ、ラリッゲルマスクを用いた人工呼吸による処置で一命だけは取り留めた。しかし結果的には脳に重篤な障害を残してしまった。

これらは、守服役囚によって筋弛緩剤が投与されたとすると、ほとんどが説明のつくものである。これを弁護団の言うように郁子医師の医療過誤の結果だとは決して言えないである。

表2に北陵クリニックの開院から閉院までの期間およびその後半田郁子医師が現在まで他病院に勤務していた期間における死亡例および急変例を示す。

(北陵クリニックや半田郁子医師では対応困難で専門医師と設備が整った他医療機関に転送した例については省いてある。これらの症例については診断もつき、それぞれ適切な処置がなされ、説明の十分つく経過を辿っている)

本文中(39ページ)にもあるように、守准看護師が勤務する前の開院後の八年間での死亡例は、家族も含め自ら北陵クリニックで息を引き取ることを希望した方が平成九年七月二日に亡くなっている一事例のみである。

表2

北陵クリニックにおける急変患者および郁子医師就職医療機関での急変患者の有無

平成年	3	4	5	6	7	8	9	10	11												13	14	15	17	18	19	20											
月									7	7	9	11	1	2	3	5	6	6	7	8	8	9	9	9	10	10	11	11	11	12	12							
患者性								Y	女	A	B	C	T	D	U	E	M	F	G	V	H	I	J	K	L	N	O	Q	R	S								
年齢								70		80代	90代	80代	60代	30代	50代	70代	70代	70代	70代	70代	50代	80代	80代	50代	70代	10代	40代	40代	50代									
主治医								郁子医師	郁子医師	郁子医師	内科医	内科医	内科医	内科医	内科医	内科医	内科医	内科医	内科医	内科医	内科医	内科医	内科医	内科医	内科医	内科医	内科医	内科医	内科医	内科医	内科医	内科医	内科医	内科医	内科医	内科医	内科医	内科医
急変時状況								薬毒性肺炎	心停止で発見	肺炎で点滴中	肺炎で点滴中	肺炎で点滴中	肺炎で点滴中	肺炎で点滴中	肺炎で点滴中	肺炎で点滴中	肺炎で点滴中	肺炎で点滴中	肺炎で点滴中	肺炎で点滴中	肺炎で点滴中	肺炎で点滴中	肺炎で点滴中	肺炎で点滴中	肺炎で点滴中	肺炎で点滴中	肺炎で点滴中	肺炎で点滴中	肺炎で点滴中	肺炎で点滴中	肺炎で点滴中	肺炎で点滴中	肺炎で点滴中	肺炎で点滴中	肺炎で点滴中	肺炎で点滴中	肺炎で点滴中	肺炎で点滴中
転帰								永眠	永眠	永眠	永眠	回復	回復	回復	回復	回復	回復	回復	回復	回復	回復	回復	回復	回復	回復	回復	回復	回復	回復	回復	回復	回復	回復	回復	回復	回復	回復	回復